

住化・住武相談室だより

第23号 11月10日

発行 住友化学・住化武田農薬

お客様相談室 0570-058-669

発行責任者 古津 昇

i-農カサイト <http://www.i-nouryoku.com/index.html>

目次

農家さん訪問記	p.1
やさしい農薬の知識 (No.14)	p.5
大家さんと行く「大田市場見聞録」	p.6
知って得する防除の仕方	p.8
住化アグログループ紹介 (株)日本グリーンアンドガーデン	p.9
今月の相談内容から	p.10
農薬あれこれ?なぜなに?コーナー	p.11
病害虫発生情報	p.12
農薬登録情報	P.13
最近の「お・美味しい!」	p.15
コラム・そば談義	p.16
編集後記	p.16



「ホトトギス(ホトトギス科)とホトトギス(ユリ科)」技術顧問 富樫作

農家さん訪問記

西洋なしの産地からこんにちは!

「シルバーベル」・・・これって何の名前だと思いますか?ラ・フランスで知られる西洋なしの品種名なのです。そう。今回の「農家さん訪問記」は果樹農家さんのお話です。訪れたのは、ラ・フランスで有名な山形県は上山(かみのやま)市の専業農家、相馬さん。見渡す限り、西洋なし、さくらんぼ、リンゴなどが植わるこの果樹園では、10月も後半を迎え、ラ・フランスの収穫が終わり、シルバーベル、リンゴが収穫を待っている状態でした。

山形県上市市「相馬果樹園」 相馬 章治さん(56歳)

まるで「ひとつの果樹園」のような皆沢地区

相馬さんの果樹園「相馬果樹園」は、主に相馬さんご夫婦と後継者の息子さんの3人で栽培(経営)されています。

相馬果樹園のある「上市市皆沢地区」は、まさに「果樹の里」といった感じで、相馬果樹園以外にもあちこちに果樹園が存在し、まるでこのあたりが一つの大きな果樹園であるかのように見えました。もともとこのあたりは、果樹栽培に適した水はけの良い土壌(赤い粘土質)で、盆地ということもあり、寒暖の差が大きい気候のため、おいしい果樹ができるのだそうです。ちなみに107



戸のうち、25戸が果樹の専業農家で、なんと相馬さん宅のようにほとんどが後継者有りという状況だそうで、後継者不足が問題化する日本農業の現状から考えると、少々驚かされました。

さて、この相馬果樹園には、どんな果樹がどれだけ栽培されているのでしょうか。伺ってみました。「栽培面積はトータルで3ヘクタール。栽培しているものは、西洋なし(1.4ヘクタール/品種はラ・フランスが主、他にはバートレット、



平棚仕立てのラ・フランス

シルバーベル)、さくらんぼ(70アール/品種は主に佐藤錦)、りんご(70アール/同じく主にふじ)で、以上が出荷販売しているもの。あとは、農園を訪れてくれる人へのサービス用として、もも、すもも、ブルーベリー、あけびなども育てています」とのことでした。

せっかくですので、ラ・フランスのお話をもう少し。「上山のラ・フランス栽培は平棚仕立ての無袋栽培。これが最大の特長です。平棚仕立ての良いところは、立木仕立てと比較すると均一な果実ができるのと、防除や剪定等の作業もしやすいこと、それに結果枝が結引されているため揺れが少なく、そのため台風にも強いこと、だそうです。また、ラ・フランスは収穫してからすぐ出荷するものではありません。冷蔵庫で、10日程度保冷して追熟させたうえで、出荷されます。そのため相馬果樹園には、大きな冷蔵庫があって、2に保たれた冷蔵庫には、園地ごとに分けられたラ・フランスが一杯入っていました。また、撰果機と呼ばれる、果実の大きさを選別する機械も見せていただきました。果実を出荷する際には、重さでランクがいくつか決まっていて、その機械に果実を乗せると、そのランクごとに選別されて落ちていくといった仕掛けでした。

相手は「生き物」いろいろ大変です

こんなに盛りだくさんの果樹たちを育てていて、しかも広い面積。さぞかし、栽培面でもいろいろと苦労されていると思いますが？

「栽培で一番苦労しているのは「ハダニの防除」です。これはやはり、抵抗性がついてしまうので、なかなか難しい。古い薬剤を使ってみたらたまたま効いたこともありますよ。それに本音を言うと、ダニ剤で新剤が出たら温存しておいて、イザという時に使いたい。とにかく薬剤とのいたちごっこはどうしても仕方のないことです。そんなことで、今は、フェロモン剤を使って殺虫剤を減らすように試みしています。フェロモン剤を導入してから3年目ですが、平棚ということもあり、効果的のようです。5年経てば、いい具合に落ち着くと思っていますが・・・」(余談ですが、ここで新発売の粘着くん水和剤のお話をしました。フェロモン剤と一緒に使ってみたらいかがでしょうか、と提案してみました)。さらに相馬さんいわく、「果樹も害虫・病気・雑草も、みんな『生き物』。毎年、同じような防除をしていては、当然、うまく『応えて』もらえません。防除は、害虫や病気が発生してからでは遅いので、予防が主になっていますが、毎年、気候も違うし、果樹の状況も異なるので、うまくタイミングを合わせてやらないと、たとえばせっかく農薬を使っても全く効果が無い場合もあります。ここ近年は異常気象も発生して予想できなくなっているのも、余計に難しい」とのことでした。

作るからには土にも味にもこだわりたい！

このように栽培面ではいろいろと難しい面もいろいろあるけれど、「努力もしていますよ」と話が続きます。

「農薬使用については、ポジティブ制度の施行などで厳しくなっているので、自分自身気をつけているし、仲間とも勉強会を開いて日々勉強しています。また、そういった安全・安心に心がけるのはもとより、味への研究にもこだわりを持って取り組んでいます。たとえば肥料にしてみても化学肥料を使用しないで『ぼかし肥料』を自分で作って散布し、土作りをすることで、より美味しいものができるようにしています」

実際に、ぼかし肥料を作っているところも見せてもらいましたが、8トンもの肥料が山のようになっていて、中の温度は54℃。これ以上になると肥料自体が腐ってしまうので、切り替しをして混ぜることにより品質を保つのだそうです。この肥料の材料は油粕、フィッシュミール、米ぬか、蟹殻などと、古いぼかし肥料からできていて、今回見せていただいたのは西洋なし用で、品種や樹種によって、それにあった肥料を作っているのだそうです。まさに「安全・安心には手を抜かずに味にもこだわる」といった姿勢が伺えるお話でした。



ぼかし肥料

都会からお客さんが訪れても、何もないと寂しいから・・・



シルバーベル

さて、このように、こだわりを持って育てられた果物たち。どうやって消費者の方へ届けられているのでしょうか。

次は販売面でのお話です。「現在は産直、いわゆる産地直送に力を入れています。ほかに、贈答用としてバイヤーにも売っています。また、農協を通して量販店にも出しています。(りんご、さくらんぼは贈答用がほとんど。ラ・フランスは産直と量販店が半々)」なかでも、産直に力を入れているとのことですが、宣伝などに力を入れていらっしゃるのですか？「宣伝はしていないので、昔からのお客

さんの口コミがほとんどです。お客さんは、1箱だけ買うのではなく、まとめてたくさん買ってくれます。それは、その人の友達・親戚などに贈答用に送るためと聞きます。おかげさまで、今までお客さんから『入金が無い』などの産直取引でのトラブルはありません。そういう意味でもお客さんにも本当に恵まれていると思います。また、お客さんとは実際に顔を合わせられないことが多いのですが、たまに、こちらの方へ遊びに来たお客さんが、自分のところまで顔を見せに来てくれたりしてくれるのが嬉しいです」

そうやって、いつでもお客さんが来てもいいように、もも、すもも、プルーン、あけびなどを、出荷販売以外の目的で育てているのだそうです。

お客さんともっともっと交流を深めたい！

いろいろと伺って来ましたが、これからの「夢」ってありますか？

「はい。現在は販売に関してまだまだ改良の余地があると思っています。これからは、栽培は息子に任せて、自分は販売のほうに力を入れて行きたい。たとえば、産直のお客さんに「私が作っています」と実際に挨拶に出かけて行ったり、せっかく安全・安心・味へのこだわりで作ったものなので、販売方法にしても、顔の見えるこだわった売り方で販売したい。さらに、今まで以上にもっともっとお客さんとの交流も深めたいと思っています。具体的には、この地区はシーズンになると果樹もぎでお客さんがいっぱい訪れてくれます。将来は、園内に、果実のミニ加工場のようなものを作って、遊びに来てくれたお客さんに、うちで栽培した果実を使ってジュースとか、アイスクリーム、ジャムなどご自身で作ってもらって、お持ち帰りいただき、喜んでもらいたいですね」



相馬さんご夫婦

農業は楽しんでやりたい・・・

お話を伺っている最中、じつは3種類もリンゴを食べさせてくださいました！なんと自家用のりんごは、食べたい時に収穫してくるとのこと、(相馬さんにとっては)当たり前のこととはいえ、なんとも羨ましい話です。また、自家製リンゴジュースもいただきましたが、加工用リンゴではなく、生食用のリンゴで作っているから、これが濃い！甘い！でもすっきり！で嫌な後味が残らない。ほんと。美味しかったです。ごちそうさまでした！

取材を終えて、帰途につく際、「今は、だいたい収穫が終わっちゃって、なんとなく果樹園も(見た目が)さみしいけれど、今度は、満開の花の時期か、収穫前に来て下さいよ。」と声を掛けてくださいました。花は、さくらんぼ ラ・フランス りんごの順で果樹園一帯に咲き乱れるそうです。見渡す限りの果樹園が花で埋め尽くされるのを想像するだけで、まるで夢のようで、是非一度見てみたいと思いました。また、印象的だったのは、「いろいろ厳しい状況でもあるけれど、楽しんで(農業を)やっていきたい。せっかくやるなら、楽しくなくっちゃあね。」という相馬さんのコトバ。それに対して、奥様いわく、「楽しくやるのは私も賛成だけど、やること一杯で忙しくてね。もうちょっと余裕があれば、もっと楽しくできるかも？」そうやって、お話している相馬さんご夫婦は、始終笑顔で、それこそ「もう既に楽しんでやってるよ」ということを物語っているようで、聞いているこちらまで、なんだかとても嬉しくなっていました。

本当にこのたびは、いろいろなお話を聞かせていただきましてありがとうございました。(佐伯)

[目次へ戻る](#)

やさしい農薬の知識 (No.14)**- 妊婦さんの心配 -**

こんな相談の電話がかかってきました。

「家の庭の木に殺虫剤をスプレーした時に、さーっと顔にかかった感じがしました。いま、妊娠2カ月で、大丈夫かどうか心配になって電話をしました」と若い女性の相談。

「そうですか。まったく心配ありません。農薬については、発がん性とかいろんな安全性に関する試験が行われています。胎児に対する影響も調べられていて、問題ないことが確認されています」

「そうですか。安心しました」

「むしろ、いろいろ心配する方が赤ちゃんには良くないようです。お酒やタバコは控えて、バランスの良い食事で、穏やかでハッピーな気分で妊娠期間を送るのが赤ちゃんに良いと言われています」と一般的なアドバイスで電話を切りました。

今回のケースですが、この妊婦さんが体内に取り込んだかもしれない農薬の量は極めてわずかでしょう。農薬については、一生涯にわたって私たちが摂取しても健康に悪影響がない量（一日摂取許容量といいます）が決められていますが、今回はその量にも満たないかもしれません。

では、農薬の安全性を調べるためのいろんな試験での摂取量はどうか。実験動物を使った試験では、人が実際にどれだけその農薬を摂取するかは全く考慮しません。出来るだけたくさん量を与えて、どんな悪影響が引き起こされるかを調べるのが目的だからです。人に換算すると一日50グラムまで*、毎日毎日、1年とか2年とかにわたり実験動物に与えて、どんな影響が出るのかを調べます。途中で実施される血液検査や尿検査は、私たちの健康診断と変わりありません。さらに、試験期間が終了すれば、全組織について重要な変化がないかどうか顕微鏡で調べます。

* 一日50グラムを最高に、動物が死なない程度でできるだけ高い量を与えます。

その結果、発がんがないかどうか、胎児・子供に影響がないかどうか、神経系に悪い影響がないかどうかや、動物に何ら悪い影響がみられない量（無毒性量といいます）などを決めています。

今回の相談のケースをざーっと計算してみると、妊婦の方が摂取したかもしれない農薬の量の、一万倍以上の量を毎日動物に与えて、胎児に対して影響のないことが確認されていました。

農薬については、いろんな毒性試験が行われ、その安全性が確認されて登録を受けています。ラベルに従って正しく使用すれば安心して使用頂けるものなのです。

（原）

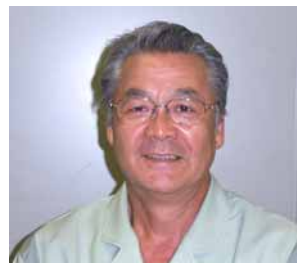


[目次へ戻る](#)

大家さんと行く「大田市場見聞録」… (鳥津部長インタビュー後編)

仕入先と販売先との信頼関係がより大切

東京青果株式会社
果実第3事業部 部長 鳥津 忠安さん



鳥津部長

今回インタビューさせて頂いた鳥津部長は、主に愛媛県柑橘生産地の主要農協に流通の提案や価格などの交渉をされています。前回に引き続き、市場が抱えている課題および方向性、また、残留農薬について市場関係者の考えをお聞きしました。

人材育成に力を入れ市場のリーディングカンパニーを目指す！

東京青果(株)が全国中央卸売市場のリーディングカンパニーになれるか、取引先に経営指導やアドバイスのような提案型の会社になれるかどうかを市場関係者から見られています。

また、弊社が一番力を入れているのは若手の人材育成です。卸売り会社として、「営業とは」「集荷業務とは」「せり売りとは」「契約取引とは」というテーマで社員を教育しています。

アメリカのPOSシステムで流通が大きく変わる！

さて、野菜・果物など市場で「せり」に掛かるものは1割程度です。このようになった理由は、昭和46年にアメリカからPOSシステム*が入ってきてからです。このシステムはわずか3年で全国に普及しました。その結果、店舗の経営効率が瞬時に分かり、売れ筋商品や儲かる商品とそれ以外の商品がハッキリ区別できるようになりました。そのデータを活用することで不足している商品をすぐに補給する必要が出てきました。そのため、「せり」をして商品を配送していたのでは、得意先の要望に間に合わなくなりました。それと同時に、個性化する店が現れました。例えば、こんな商品を店として扱って個性を出したい、また、こだわりたい、それらを複合的に絡めた商売をしたいという風になってきました。そうすると、昔の商売のように商品が来てからどう売るか対策を立てているようでは、商売として成り立ちません。また、事前にこの商品をいくらで売ったらよいか、分からなくては困ります。

*店舗で商品を販売するごとに商品の販売情報を記録し、集計結果を在庫管理やマーケティング材料として用いるシステムのこと

固定ルートとしてお互いの信頼関係が大切！

そこで、お互いが価格を確認する必要が出てきました。
例えば、原価はいくらで、損益分岐点はいくらなのかなどを知っておく必要があります。

マーケット全体が解り、且つ末端でどれぐらいの値段で売るものなのか、シミュレーションしておく必要があります。

それには、相手の懐を探るのではなく、お互いがガラス張りにしておかないと商売は長続きしません。仕入先と販売先業者の考えについてお互い理解しておく必要性が出てきたのです。要するに、信用取引の基盤においてお互いの信頼を更に深め、固定ルート（仕入先と販



せりの風景

売先 間の考え方の再確認をする必要性があります。そうなれば、双方の経営も安定することができます。

ご存知のように、今まではデフレ経済の中で商売のやり方が乱れました。そのことについて、市場関係者なら皆分かっているのですが、それを正そうとは言いづらいし、云ったらあちこちで文句があるので黙っています。だから、ものを言うことが出来ないことで、今の時代は「リーダー不在」ということではないでしょうか？

また、青果物卸会社は、公共性の使命も兼ねています。生産地からマーケット

までの大事な橋渡し役を担っています。そのため、相手がどうであろうが一定の口銭を貰って無難に橋渡し役だけをするのではこれからはだめです。お互いが、良きパートの関係でなければなりません。

残留農薬は必要以上に敏感になることはない！

最後に、安全・安心はもとより、残留農薬について必要以上に追求してくる店や業者には、「そんなにこだわるのなら取引して頂かなくて結構ですよ」と云っています。

そこまで敏感になる必要はありません。むしろ、市場側がそういう反応を示すことで世間に与える影響がものすごく大きいと思います。例えば、東京青果（株）が「農薬を使用したものは罷りならぬ」と云ったりすると、大きな波及効果が出て大変な損害**が出るようになります。健康に悪影響があるなら別ですが、それ以外は、何ら問題にするべきではありません。

・・・マスコミには逆らえないことは知っていますが、今の時代は少し異常だと思います。

**生産地への風評被害および生産物の廃棄、それによる品不足などで値段の高騰が起こり、消費者にも被害が出てくる可能性がある

東京青果株式会社 URL : <http://www.tokyo-seika.co.jp/>

見出し記載の大家さん..日本エコアグロ(株)でトマトなどのパイヤー的仕事に従事されています。

[目次へ戻る](#)

知って得する防除の仕方

樹幹害虫防除にガットキラー乳剤

キクイムシ類やコスカシバは、もも・おうとう・小粒核果類(あんず・うめ・すもも)に被害を与えます。

これらの作物を加害するキクイムシ類には、ヤチダモノナガキクイムシ・トドマツオオキクイムシがあり、両害虫とも年1回発生します。5~6月に成虫が出現し、樹勢が衰弱してきた樹木に食入、産卵します。幼虫期にはアンブロシャ菌を培養して食餌として食べて生長し、蛹になります。新成虫はそのまま越冬して、翌春に親の侵入孔から脱出します。



食入孔



成虫 主幹に食入しようとしている越冬成虫



卵と幼虫

コスカシバも年1回の発生で、樹幹又は被害部位で幼虫のままで越冬します。成虫への羽化は5月下旬~

10月までだらだら続きます。成虫は樹皮の割れ目や外傷部等に産卵します。産卵部からふ化幼虫が侵入し、形成層などを食害します。食入孔から虫糞とともに樹脂が吹き出ます。マコを作って越冬し翌春に老熟幼虫が蛹化してだらだらと羽化します。

これらの害虫に対しては、作物の生育期に防除する方法もありますが、作物の休眠期に「ガットキラー乳剤」を用いて、被害部で越冬している害虫を防除する方法が効果的です。本剤は浸透性を高めた特殊製剤で、樹皮下に食入した幼虫にも優れた効果を発揮します。使用方法は散布です。落葉後から萌芽前の時期に、50~100倍希釈液を、キクイムシを対象にする場合は樹幹から地際部へ、コスカシバを対象にする場合には樹幹部及び主枝へ、それぞれ散布します。あらかじめ、虫糞、粗皮等を取り除いてから散布すると効果的です。

なお、萌芽後は薬害のおそれがありますので、散布は出来ません。

(富樫)

[目次へ戻る](#)



孔道の断面 変色した腐敗部



住化アグログループ紹介

(株)日本グリーンアンドガーデン

「梨美人」のご紹介

マダラ果よ、さようなら～!!

梨(幸水)用葉面散布肥料



梨美人は水溶剤タイプの葉面散布肥料で、梨(幸水)の幼果期に散布すると展着成分が果実を覆い、果実表面の保水性を高め、果点間コルクの形成を促進します。

その結果、幸水の果実がマダラ果になるのを防止して、見た目のきれいな商品性の高い果物を作ることが出来ます。また、使い方により、果重の増加・増糖効果など、いろいろな特長を有しております。

ぜひ、一度 梨美人を利用して美しい梨を作ってみてください。

[使用方法]

使用濃度は1000～2000倍で散布してください。農薬との混合でも使用可能です。

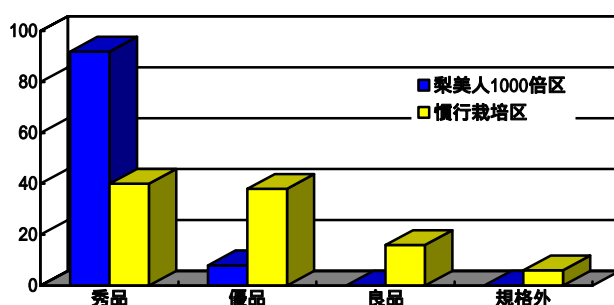
梨(幸水)のマダラ果防止には、満開50日後より90日後まで10日間隔で3～4回散布してください。

1回目の散布は必ず満開50日後頃より始めてください。また、果実全体に梨美人が十分かかるように散布してください。

茨城県農家での試験結果

供試品種：幸水 成木 処理日：5/30、6/13、27、7/11 調査月日：8月7日

幸水のマダラ果防止効果



使用例



梨美人使用



無処理-マダラ果

[目次へ戻る](#)

今月の相談内容から

ハダニ・アブラムシ防除に粘着くん液剤

質問 「粘着くん液剤」をいちごのハダニ類の防除に使用したいのですが、果実への薬害や汚れへの影響について教えてください。また、葉の気孔が詰まったりしませんか？

回答 いちごを加害するハダニ類にはナミハダニとカンザワハダニがあります。

苗からの持込みで下葉の葉裏に1～数匹が寄生すると少しずつ増殖し、新葉の展開に伴って上位の葉に移動し、加害します。増殖は極めて旺盛で、同じ株では急増しますが、隣接株への移動は遅いので、発生初期～中期は坪状に発生が見られます。葉を加害しますが、多発すると果実にも寄生して着色不良を引き起こします。加害が進むと株が矮化し減収になります。多発生では株は枯死します。防除には、寄生した苗を持ち込まないことが重要なので、定植前の苗の防除を徹底する必要があります。また、開花期～結実期は防除が困難で薬害の心配もあるため、移植後にもハダニの徹底防除をします。なお、ハダニ類には抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤を連用しない計画防除が必要です。



被害初期 ハダニで葉が縮む



ナミハダニ 雌成虫

「粘着くん液剤」は食用の加工デンプンを製剤したもので、ハダニ類やアブラムシ類を物理的な作用で殺虫するため、極めて速効的な効果が期待できます。また、物理的な作用ですので、他のダニ剤で抵抗性を獲得して効きにくくなったハダニ類に対しても十分な効果を発揮します。

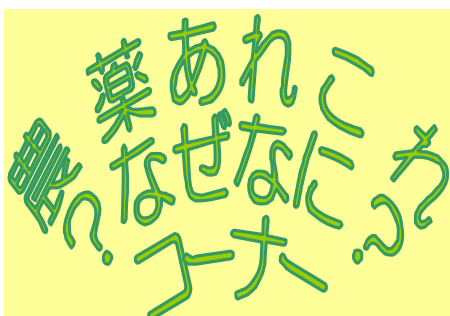
「粘着くん液剤」自体への抵抗性獲得のおそれはありません。しかし、散布液が直接ダニにかからないと効果を発揮しませんので、ムラなく薬液がかかるように葉の裏面にも丁寧に散布します。卵には作用が無く、残効性もないので、多発条件下では5～7日間隔で連続2回散布や他のダニ剤との輪番で使用します。いちごの開花期や結実期に散布しても汚れや薬害の事例はありません。また、植物の気孔が詰まることもありません。ミツバチや天敵に対する影響もありませんので安心です。

但し、使用上の注意事項として、製品ボトルをよく振ってからタンクに入れる。(デンプンは比重が重いので下に溜まる) 薬液がいつまでも乾かない条件の場合は使用しない。

他剤と混用する場合は、事前に薬害の有無を確認してから使用する。などがあります。

話は変わりますが、天敵に安全性の高い「プレオフロアブル」がいちごのオオタバコガに登録拡大になりました。既に登録のあるハスモンヨトウの防除に合わせてご使用をお奨めいたします。(富樫)

[目次へ戻る](#)



農薬は、土にそのまま残っているような気がするのですが?

ご質問

今回は、農薬の分解について簡単に教えてください。

先日、近くの農家さんが農薬を散布しているところをたまたま見かけました。その時になんとなく「このお薬は散布された後、どこに行くんだろうな」と思ったものですから。

農薬が使われた土とか、かかった作物とか、(農薬は化学物質だし)そのまま分解せずに、ずーっと残っているようなイメージが、私にはあるのですが、実際のところはどうなのでしょう?

お答え

作物に付着した農薬は、光(主に紫外線)によって分解されたり、雨によっても洗い流されてしまいます。

植物体内に吸収されたものは、植物の持つ酵素等で分解(代謝)されます。土に落ちた農薬は、ほとんどが土壌表層に吸着され、微生物や光によって分解されていきます。

また一部、大気中に飛散した農薬は光によって分解されます。

このように、散布された農薬は自然界で分解され、農薬として作用のない炭酸ガスなどの物質になり、消失していきます。農薬は化学物質ですので、いつまでも残るようなイメージがありますが、現在、自然界でいつまでも残るようなものは、農薬として国から認可されなくなっています。

(佐伯、稲葉)



[目次へ戻る](#)

病害虫発生情報

10月～11月初旬に各県から出された病害虫注意報・特殊報から、主要なものをお知らせします。

野菜類

いちご ハダニ類

注意報：福岡・宮崎・鹿児島県

早期発見・早期防除を心がけてください。寄生葉は圃場外へ持ち出し処分してください。薬剤は下葉かきを行ってから、ダニが生息する葉裏にかかるように散布してください。オサダン水和剤・フロアブル、ロディー乳剤などが使用できます。

なす タバココナジラミ バイオタイプQ

特殊報：岡山県

多くのコナジラミ防除剤に抵抗性を持つタイプです。

ベストガード水溶剤・粒剤はこのタイプのコナジラミにも効果を発揮します。

トマト トマトすすかび病

特殊報：千葉県

病徴は葉かび病に似ており肉眼での判別は不可能ですが、顕微鏡下では容易に判別がつかれます。過湿にならないように注意し、被害植物の残渣上で生存して次の伝染源となるので、被害葉などは圃場外へ持ち出してください。

トマト・ミニトマト他

トマト黄化葉巻病 特殊報：群馬・埼玉県

タバココナジラミ 注意報：宮崎・鹿児島県

トマト黄化葉巻病は、タバココナジラミ バイオタイプQ、バイオタイプB（シルバーリーフコナジラミ）により媒介される、トマト黄化葉巻ウイルスによって起こります。この内バイオタイプQは、多くのコナジラミ防除剤に抵抗性を持つタイプです。

ベストガード水溶剤・粒剤は両方のタイプのコナジラミにも効果を発揮します。



イチゴ ハダニの被害株

果樹

いちじく イチジク株枯病

特殊報：新潟県

昭和56年に愛知県で初めて発見され、現在では全国のいちじく産地で発生しています。地際部が侵されるため、葉が萎凋と回復を繰り返し、下葉から順次黄化落葉します。土壌伝染、苗木伝染、孢子伝染、保菌したキクイムシ類が媒介するなど、種々の伝染経路があります。

防除対策として、健全な苗木を植栽する。発病株は根ごと抜き取り圃場外で処分する。発病株の周辺にある健全株に対して薬剤防除する。病原菌を媒介するキクイムシ類が寄生しないように樹勢を維持するなどがあります。



イチジク株枯病

キクイムシ対策には、ガットサイドSの塗布が有効です。

茶

ミカントゲコナジラミ 特殊報：奈良県

本来はかんきつの害虫ですが、茶での発生は平成16年に京都府南部で初めて発生が確認されています。滋賀県でも本年確認され、奈良県では、茶産地のほぼ全域で確認されています。成虫・幼虫による葉の吸汁加害と、すす病の発生を招く被害をもたらします。

その他

だいず フタスジヒメハムシ

特殊報：埼玉県

成虫が大豆の葉、子葉、莢、茎などを食害します。幼虫は根粒内に潜入して内部を食害します。アグロスリン乳剤、ダントツH粉剤DLで防除してください。

トルコギキョウ トルコギキョウ葉巻病

特殊報：山口・大分県

トマト黄化葉巻ウイルスによる病害で、コナジラミ類により媒介されます。

ベストガード水溶剤が花き類のコナジラミ類で登録があります。



フタスジヒメハムシ被害葉

(稲葉)

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

9月20日、10月4日 の適用拡大内容です。

新規登録

ヨシキタ1キ口粒剤 (農林水産省登録：第21829号) 11月1日付登録

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ (北海道を除く) ヘラオモダカ (北海道、東北) ヒルムシロ セリ	移植直後～ 移植後12日 (L・Iの1.5葉 期まで)	壤土～ 埴土	1kg /10a	1回	湛水 散布	北海道、東北
		移植直後～ 移植後10日 (L・Iの1.5葉 期まで)					北陸、関東・東山・ 東海、九州の普通 期及び早期栽培 地帯

アオミドロ・藻類による表層はく離(近畿・中国・四国を除く)		砂壤土 ～ 埴土				近畿・中国・四国の普通期及び早期栽培地帯
-------------------------------	--	----------------	--	--	--	----------------------

ヨシキタフロアブル (農林水産省登録：第21831号) 11月1日付登録

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水稻	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ (北海道を除く) ヘラオモダカ (北海道、東北) ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ 移植後12日 (L ¹ Iの1.5葉期まで)	壤土～ 埴土	500ml /10a	1回	原液 湛水 散布	北海道、東北
		移植直後～ 移植後10日 (L ¹ Iの1.5葉期まで)					北陸、関東・東山・東海、九州の普通期及び早期栽培地帯
		砂壤土 ～ 埴土	近畿・中国・四国の普通期及び早期栽培地帯				

適用拡大

薬剤名	変更点	作物	病虫害名	使用量	内容
アディオ ン フロアブル	作物追加	マルメロ	シンクイムシ類	1500倍	収穫14日前まで 2回以内 散布
ベジホン乳剤	希釈倍率・ 使用液量 追加	てんさい	ヨトウムシ	400倍 25L/10a	少量散布に適合した ノズルを装着する
ベストガード 粒剤	使用方法 追加	トマト ミニトマト きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	育苗期 「株元処理」追加
		ピーマン メロン	アブラムシ類	1g/株	
		ねぎ	ネギハゲウジ	5g/培土L	
	使用薬量 変更	レタス	ナモグリバエ	0.5～1g/株	育苗期後半 株元処理0.5g追加
ダコニール1000	作物追加	しゃくやく (薬用)	うどんこ病	1000倍	収穫45日前まで 3回以内 散布
		やまのいも (むかご)	炭疽病 葉渋病 つる枯病	1000倍	収穫45日前まで 6回以内 散布

		ブロッコリー	べと病	1000 倍	出蕾前、但し収穫 21 日前まで 2 回以内 散布
			根こぶ病	1000 倍	定植時 1 回 1 m ² 当たり希釈液 3L 土壌灌注
	作物名 変更	みょうが(花穂) みょうが(茎葉)	-	-	「みょうが」を「花穂」 と「茎葉」に分ける
デラウス ダントツL 箱粒剤	適用害虫 追加	稲 (箱育苗)	ウンカ類	50g/ 箱	は種時覆土前 ～移植当日
	使用時期 変更		イミズグムシ イトコイムシ	-	「移植 3 日前～当 日」「は種時覆土 前～移植当日」

(稲葉・佐伯)

最近の「お・・・美味しい!!」

弊社相談室紅一点!の佐伯がお送りします
最近の「お・・・美味しい!!」
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、
毎月「これぞ!」というものを紹介します。
どうぞお楽しみに♪♪

「新蕎麦の味は、ほのかな甘味・・・」

えー。今回は、「コラム・そば談義」と話題がかぶりそうですが(笑)、「新蕎麦」のお話です。

めったに出張に出かけることのない佐伯ですが、今月は、巻頭ページにもある「農家さん訪問記」取材のため、山形県まで出かけることができました・・・。農家の相馬さん宅でも、たくさん美味しいリンゴをいただきましたが、取材が午前中だったのと、同行した編集長の



美味しい新蕎麦!いただきますっ。

古津が「食べる気まんまん」だったので、お昼ご飯は、近くの美味しいと評判のお蕎麦屋さんに行ってもらいました。

注文したのは、シンプルに「もりそば」です。新蕎麦とのことでしたので、せっかくですし、まずはお蕎麦をそのままいただきましたよ。

・・・なんでしょうねえ。香りがとても良く、鼻に抜ける香りもまたよし。味は、甘味のある、

つゆをつけなくても、十分いける味でした。でもね!つゆもこれがまた美味しかった。カツオの香りが強く、全面に出てくるくせに蕎麦の邪魔をしない。なるほど、このお蕎麦とよく合います。そして、薬味はネギと七味のみ。でも今回はネギ女(ネギ好きという意味)の私でさえ「ネギは要らんな」と思いました。薬味がかえって、素材の味覚を「ぼやかす」というか・・・そんな感じがしたもので(単に入れ過ぎただけかも?)。さあ!美味しい蕎麦の季節ですよ。皆さんも楽しんでくださいね。(佐伯)

<今回お邪魔したお蕎麦屋さん:山形県 原口そば>

[目次へ戻る](#)

コラム・そば談義

蔵王を背景にりんごが色づく山形に行った。

東北は、単身赴任を含めて7年ほど過ごしたところだ。蕎麦打ちはこのとき修行(遊び)した。

さて、地方のそば屋は都心と比べて質素なところが多い。評判の良い店でも、座敷に長机があり、客は向かい合わせで座って食べるところが多い。客層もその土地の人が殆どである。その証拠に郵便配達人などは昼寝も兼ねて利用している。メニューも至ってシンプルで、「もり」と「ざる」で肴は2～3品あるぐらいである。

このような光景は、私の故郷の讃岐でもよく見かける。普通の民家がうどん屋だったりして、食べにくる客はまさしく地元の人だ。おもしろいことに、九州でも同様な光景を見た。天草への最初の橋を渡った島の小さな漁港に、長崎ちゃんぼんの店があった。店内は昼時のためか地元の人で満席になっていた。メニューはちゃんぼんと皿うどんだけ。ちゃんぼんを頼むと大きな丼にタップリの麺と、海の幸がてんこ盛りになってドーンと出てきた。その時の青い海と具沢山のチャンポンの味は今も忘れられない。

それに比べて、東京の「蕎麦屋」はチョッと違う。何となく敷居が高く、上品で且つ値段も結構する。しかし、美味しい肴と名酒を取り揃え、店内に季節の花を添え照明にも気を使い、落ち着いた雰囲気の内装を施し、料理は店主が選んだと思われる趣味のよい焼きものの器に品良く盛られて出される。すべて、店主のこだわりで包まれている。要は、「そば」だけを提供するのではなく、店主の人柄ふくめてトータルで寛ぎの場を提供しているのである。

さて、わが相談室はどちらの部類に属するのだろうか。云えるのは、お客様の相談内容によって担当者が違う場合がしばしばある。一担当者がすべてを受け答え出来れば良いのだが、分野により得て不得手がある。より専門性の高い質問には、一番その分野に知識のある者が対応している。そのとき担当が不在の場合はその次によく知っている人が答えるようにしている。(わが相談室は窓口の女性が担当者を振り分けているところがあるのだが?)

要するに、相談頂いたお客さんに一番満足して頂くものを用意しているつもりである。蕎麦屋さんに例えるなら、ここのそば屋(相談室)に来ると気持ち上和み安心して任せていられるかと思っただけかどうかなのだろう・・・。(古津)

編集後記

世界的に農作物価格上昇の報道があります。

オーストラリアなどの旱魃による影響もありますが、中国やインドなどの富裕層の増加でたんぱく質の摂取量が増えていることも無視できません。また、各国がサトウキビ・トウモロコシからバイオエタノールの生産を本格的に取り組む動きも拍車を掛けています。現実には、米国の食糧備蓄量が徐々に減少しています。

日本も、食料自給率を上げていく必要性を真剣に考える時期にきているような気がしてなりません。(古津)



[目次へ戻る](#)